ありあけ

佐賀大学農学部
同窓会報
No.33

発行日 2024年 4月 1日　発行 佐賀大学農学部同窓会
編　集 会報編集委員会　住所 佐賀市本庄町1佐賀大学内

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700
E-mail dousoukai@safdai.jp
ホームページ http://sadai.jp/alumni/nougakudousoukai/

目　次

巻頭言
食料安全保障と地産地消の再定義　野見山　敏雄…1

同窓会活動
同窓生と農学部学生との交流会　野中　一弥…3
農学部と農学部同窓会との意見交換　野中　一弥…5

農学部情報
学生への就職支援と令和 4 年度の進路動向　野間　誠司　准教授…6
研究室紹介⑳
国際地域マネジメントコース
地域開発学分野　藤村　美穂　教授…7
インターンシップ体験記
岩根　ミッシェル…8
杉原　立樹…9
石井　南帆…9
内藤　大翔…10

若手 OB･OG からのメッセージ
学生時代を振り返って思うこと　神田　倫…10

会員の広場
同窓会フェスに参加しました　編集担当　田代　暢哉…11
農学部教員 OB 会　編集担当　田代　暢哉…12
山菜の栽培法と食べ方講座
②こごみ　田中　欽二…13
渡辺先生最高齢入選　編集担当　田代　暢哉…14

支部だより
農業自営者の会　末次　博幸…15

同窓会からのお知らせ
会費対策担当からのお願い　鐘ヶ江　直雅…16

編集後記…17
協賛広告…18

巻頭言

食料安全保障と地産地消の再定義

東京農工大学　名誉教授　野見山　敏雄
（S54 卒　農学・育種）

地域循環経済と地産地消

ロシアとウクライナの戦争，イスラエルとパレスチナとの中東紛争によって多くの人命が日々失われている。そして，この戦争と円安の進展が食料，エネルギー資源，農業生産資材等の価格高騰をもたらしている。これが契機となって，食料の国内自給や農業生産資材の自給の重要性がクローズアップされている。

持続可能な社会形成には，地元のものを地元で消費する地産地消が地域振興の意味で重要であることを多くの人が理解していると思う。この「地元のもの」の中には，農畜産物，水産物，木

材，燃料，再生可能エネルギーなどがある。例えば，農産物直売所（以下，直売所）や地域スーパーマーケットが中核となって，原料農産物の加工・小売の過程で地域内の就業先を確保する取り組みがある。また，商品の物流も貨客混載や巡回集荷など小さな地域内流通によって行うことで財貨が地域内で循環することができる。このような実践活動は全国津々浦々にあるだろう。これを地域循環経済という。（一社）循環経済協会のホームページによれば，循環経済は線形経済の反対概念として位置付けられ，資源の浪費に依存しない持続可能な経済発展に貢献するとある。まさしく，地産地消の実践そのものである。

「農政の憲法」の改正

ところで，政府は 2024 年 2 月 27 日に「農政の憲法」とも言われる食料・農業・農村基本法改正案（以下，改正基本法案）を国会に提出した。1999 年に制定された現行基本法から四半世紀ぶりの改正である。改正基本法案は食料安全保障の確保を基本理念に位置付けている。食料や飼料や肥料などの生産資材の高騰と農業人口の減少といった情勢を踏まえたものである。

改正基本法案は理念法であり国会で承認された後，農林水産省は具体的な政策設計に入る予定である。しかし，改正基本法案には農泊や農福連携の文言は含まれているが，地産地消に関する文言が見当たらない。地産地消が食料安保で果たす役割や多様な農業形態を核とする地産地消の農業生産への寄与など地産地消を再評価することを期待している（改正基本法は 5 月 29 日に成立した）。

地産地消の再定義

地産地消には運動論と事業論の二つの側面がある。第 2 期食料・農業・農村基本計画（1995 年策定）では運動論的側面が強調され，事業論としては直売所や農産加工施設の新設に際する補助金の投入が行われた。近年実施された地域食品産業連携プロジェクト（LFP）も地産地消の一分野と言える。つまり，地産地消は運動論と事業論の二輪車と言える。前輪の運動論で舵を取り，後輪の事業論で駆動する。地産地消の事業規模によって自転車なのかバイクなのかは変わってくるが，運動論の理念や哲学が確かでないと正しい方向に進まない。また事業論が運動論に合わせて駆動しないと，組織や事業体は運営できない。この二輪が揃ってはじめて地産地消はまっすぐ前進するのだ。

地産地消は二輪車である(自転車)

図1 小さな地産地消

地産地消は二輪車である(バイク)

図2 大きな地産地消

一方，北米ではフードシチズンシップという巨大な食品産業や多国籍企業から自分たちの食べ物を取り戻そうという運動が広がっている。その運動にはフードデザート（食の砂漠）や市民農園の確保，フードスタンプ（低所得者向けの食料費補助対策）の直売所使用の許可，学校給食の地元産食材の使用などが課題として取り上げられ，いわば小さな自給圏をつくっている。小さな自給圏がネットワークで結び付いていくことが社会の安定をもたらすと考えられている。内橋克人氏が提唱した FEC（食料・エネルギー・医療と介護）自給圏は同様な仕組みである。小さな自給圏に行政が関わるのであれば，生産～加工・流通～消費という食料システム全体を通じた組織横断的な地産地消の政策が望ましく，そして，それに伴走する食農教育が児童・生徒から成人に至るまで実施される社会を展望したい。これが私の提唱する地産地消の再定義である。

次期基本計画では，消費者，移住者，消費者団体，NPO などの非農家を巻き込みながら国内生産と国内消費，地域内生産と地域内消費が結びつくことの重要性をアピールするため運動論の再構築と現在の事業の継続等の事業論の補完を望みたい。事業論の補完については，現行基本計画の補助事業で建設された直売所や農産加工場の補修や改修に対する支援や，地域コミュニティが活動できる仕組みづくりについて応援できれば良いと考えている。

以上，「巻頭言」として自由に書かせていただいた。私は育種学研究室の岸川英利教授，高木胖助教授の下でイネ 4 倍体の葯培養を卒論研究のテーマとした。卒論研究時には文献検索の方法や研究のゴールを明確にすることなど研究の方法を両先生から手解きを受けたことは振り返ってみると得がたいことだった。卒業後に就職した福岡県庁（嘉穂農業改良普及所と福岡県農業総合試験場）と東京農工大学農学部では社会科学系の仕事だったが，この経験は大いに役立った。ここに記して，二人の先生と 1975 年入学の農学科同期生に感謝したい。

同窓会活動

同窓生と農学部生との交流会

2023（令和 5）年 11 月 22 日に同窓会館「菱の実会館」とインターネットを接続し，対面参加と web 参加の複合形式による「同窓生と農学部学生との交流会」を開催しました。本交流会は在学生の就職活動支援の一環として毎年開催しているものです。農学部からは田中宗浩副学部長（H4 年卒　生生・施設）を始めとして 3 名の先生方にご出席していただき，インターネット接続を含め，交流会を運営していただきました。

同窓会からは森田　昭会長（S52 卒　農学・農経），鐘ヶ江直雅副会長（S56 卒　農化・生化），松尾信寿副会長（S63 卒　園芸・果樹），南　隆徳支部長（S63 卒　園芸・蔬菜・花卉園芸），西村隆嗣支部長（H4 卒　農学・病理），野中一弥理事長（H 元卒　農化・土肥）の役員 6 名が出席しました。さらに 5 名の卒業生に就職ガイダンス講師として参加していただきました。在学生の参加は対面参加 7 名＋web 参加 15 名でした。

交流会では，森田会長から「先輩方の体験談やアドバイスを今後の進路選択の参考にして欲しい」と在学生への激励の言葉があり，同窓会活動の紹介を含めた挨拶がありました。

その後，5 名の卒業生から，それぞれの職場の状況，現在の職業を選んだ動機，自分の経験に基づいた就職活動へのアドバイス，在学中に経験しておいて欲しい事等について講演がありました。講演は一人 10 分程度と短時間ではありましたが，全講師がパワーポイントや紙面による図表や写真等を用意されており，分かりやすくインパクトのある講演をしていただきました。

講演の中では，

① 自ら幅広く情報収集して進路を決めることが大切。学生時代のアルバイトも役立つ
② 就職面接では「やる気」をいかに伝えるかが重要
③ 仕事では，人とのつながり，相手からの感謝が「やりがい」になっている
④ 社会ではコミュニケーショ能力が大切

など，経験者ならではの迫力ある講和が続き，あっという間に時間が過ぎました。また，講話ではクイズが始まったかと思えば，プライベートでの趣味や職場サークル活動の話などにも話題が脱線し，笑いが絶えない和やかな雰囲気となりました。在学生は熱心に聞いておられ，有

意義な時間を過ごしていただけたと思います。

今回の講話では民間企業の卒業生として星野祐輝氏にご参加いただきました。また，平原はなえ氏は残念ながら当日の急病で欠席され，西村隆嗣支部長に代理講話をしていただきました。以下に講師の皆様をご紹介させていただきます（敬称略）。最後になりましたが，講師の皆様，ならびに講師選出等でご協力いただきました関係支部長様に紙面をお借りし，お礼申し上げます。

・佐賀県庁支部：佐賀県農業試験研修センター
本多　優志（R2 卒・応用生物）
・佐賀県教職員支部：佐賀県立唐津南高等学校
大串　佳代（H25 卒　生物資源）
・佐賀市役所支部　：佐賀市役所総務法制課
西村 幸大（H18 卒　生物生産）
・佐賀県農協連支部：JA さが佐城園芸センター
平原はなえ（R4 卒　応用生物）
・民間企業：（株）オプティム
星野　祐輝（H30 卒　生物環境）

農学部同窓会理事長　野中一弥
（H 元卒 農化・土肥）

佐賀市農協連　西村隆嗣支部長の講話

（株）オプティム　星野祐輝さんの講話

農学部と農学部同窓会との意見交換

2023（令和 5）年 10 月 16 日に農学部と農学部同窓会との意見交換会を佐賀大学農学部「学生演習室」で開催しました。農学部からは鈴木章弘農学部長をはじめ永尾晃治副学部長，田中宗浩副学部長，鄭紹輝副学部長，古賀豊司生物科学コース長，近藤文義食資源環境科学コース長，小林元太生命機能科学コース長，藤村美穂国際・地域マネジメントコース長，谷口圭介事務局長の 9 名にご出席いただき，同窓会からは森田昭会長，鐘ヶ江直雅副会長，郡山益美副会長，松尾信寿副会長，田代暢哉理事（編集長）ほか佐賀県庁支部，佐賀県教職員支部，佐賀県農協連支部，農業自営者の会の役員 10 名が出席しました。

意見交換会では，森田同窓会長から「今年は農学部同窓会 50 周年の年であり，同窓会では引き続き会員の親睦と融和，在学生への支援を二本柱として大学との協力・支援体制をさらに深めていきたい」と挨拶がありました。続いて，鈴木農学部長から農学部の研究と教育の取り組みが紹介され，「今後はさらに国際化を進めながら，人のためになる，環境を守る研究を充実させていきたい」とのご挨拶をいただきました。

続いて各コース長から学生の育成状況や就職状況等の情報を提供していただきました。その後の意見交換では双方の立場から活発な要望が出され，今後の連携強化につながる有意義な意見交換ができました。農学部からは，さらに地域貢献を目指した研究活動を進めるうえで，より一層の同窓会からの支援をお願いされたところです。

主な要望内容は以下のとおりです。

＜農学部から同窓会への要望・質問＞

1. 農学部への支援継続
2. 農学部のキャリアデザイン講座への講師推薦の協力
3. 同窓会の今後の取り組みとして民間企業の卒業生の交流の場づくりへの提案

＜同窓会から農学部への要望・質問＞

1. 教職員，農業関係（JA，県など）を目指す学生確保への支援
2. 在学生による農業現場での労力支援を通じた現場体験の取り組みへの協力
3. 同窓会への在学生加入促進への支援
4. 教職免許の取得希望者，卒業生の就職状況に関する情報提供
5. 在学生の海外渡航の状況

今年度は新型コロナ感染症の感染法上の分類が第 5 類に引き下げられ，同窓会でも令和元年以来 4 年ぶりに会員が一堂に会する総会を開催するなど，様々な活動を再開しています。一方で新入生の同窓会加入率が低下しているため，同窓会の魅力向上を図るためにも，農学部との意見交換を今後も継続し，さらに連携強化していくことが必要と思われます。

農学部同窓会理事長　野中一弥
（H 元卒 化・土肥）

発言される森田会長

意見交換会の様子

農 学 部 情 報

学生への就職支援と令和4年度の進路動向

生命機能科学コース・フードサイエンスグループ
生物資源利用学分野
准教授　野間誠司

令和 5 年度は，古藤田信博先生（生物科学コース・果樹園芸学分野）の後任である上野大介先生（食資源環境科学コース・生産環境化学分野）との 2 人体制で，農学部，農学研究科および先進健康科学研究科（農学系）に所属する学生の就職支援を行っております。以下，令和 5 年度の学生への就職支援と令和 4 年度の進路動向を紹介します。

学生への就職支援

農学部学生はキャリアセンターによる全学対象の就職支援に加え，農学部後援会のご支援のもと，（株）リクルート，（株）マイナビ，ジョブカフェ SAGA の 3 社様にご協力いただいて開催している学部独自の「農学部就職講座」も受講できるようになっています（表）。

令和 5 年度は 4 月 12 日から開始し，前期はインターンシップ対策と SPI 対策に加え，県内外の 5 つの事業所様においでいただき，各業界の内容や近年の動向をご紹介いただきました。後期は内定者報告会からスタートしました。

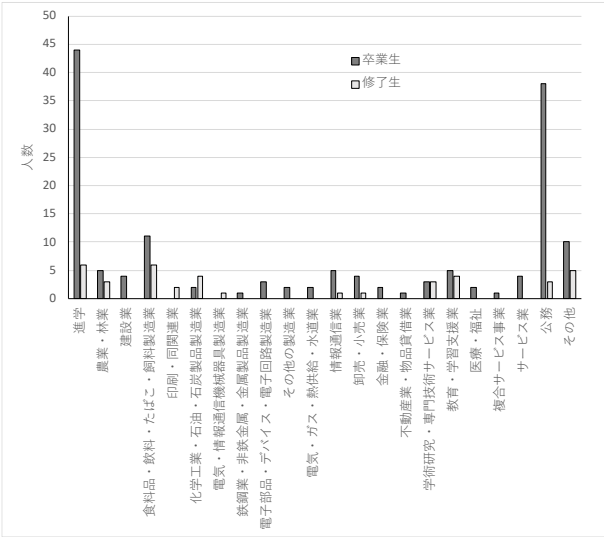
前学期	1	就活の始め方・登録会
	2	インターンシップガイダンス
	3	インターンシップ選考対策　～自己分析・自己PR～
	4	インターンシップ選考対策　～企業の探し方・合説活用法～
	5	インターンシップ選考対策　～エントリーシート・面接～
	6	SPI理解講座
	7	企業による業界研究・交流会
	8	保護者のための就活セミナー（講演会）総会
後学期	1	内定者報告会
	2	企業研究・業界研究　～企業の深め方～
	3	エントリーシート・履歴書対策
	4	面接対策　（GD含む）
	5	全国一斉WEB模擬テスト受験会
	6	集中講座（自己分析講座，自己PR，面接）
	7	集中講座（ガクチカ，志望動機，面接）

令和 5 年度農学部就職講座

民間企業，官公庁から内定を獲得した学部学生 2 名，修士学生 2 名に登壇していただき，学生生活，研究室生活も含め，就職活動の実際について体験を語ってもらい，次年度就職活動を本格化させる後輩たちに良きアドバイスを送ってもらいました。2 回目以降は就職活動開始を見据えた内容が予定されています。

令和 4 年度の進路動向

昨年度は卒業生については，卒業生 149 名中 44 名が修士課程に進学しています。就職した 95 名のうち，38 名が公務，57 名が民間でした（図）。修了生については，39 名のうち，6 名が進学，3 名が公務に，25 名が民間に就職しました（図）。近年，学部生，大学院生問わず夏季･冬季休業期間を利用してインターンシップに参加することが一般化しています。また，そこで成果を残すことが早期の内定取得につながっている例が増加しつつあります。令和 6 年度に就職活動する学生の皆さんについても早い時期から情報を集め,準備を行い，出遅れないように就職戦線に立ち向かってもらいたいと思います。農学部 OB の皆様におかれましては，現役・卒業生の就職活動につきまして引き続きサポートいただけますと幸甚です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



R4 卒業生・修了生の進路状況（「佐賀大学農学部・大学院農学研究科概要 2023」より）

研究室紹介 その⑳

国際・地域マネジメントコース　地域社会開発学分野

教授：藤村　美穂

国際・地域マネジメントコースの地域社会開発学研究室を紹介させて頂きます。このコースは，農業経済学研究室を中心に農村地理学や人類学，農村社会学などの諸分野が集まって構成された経緯がございます。農学部はその後 2 度ほど改組を行いましたが，人間の生活や経済から農業・農村や，それをとりまく諸問題を考えていくという研究姿勢を共有する複数の分野が一貫してカリキュラムを維持しています。現在はコース名に「国際」がついていることからもわかるように，スリランカ，ベトナム，インドネシア，バングラデシュなどから多くの留学生をむかえ，分野の壁をこえてコース全体で指導しています。留学生たちが国に帰ってからは大学の教員となり，後輩たちの研修を受け入れてくれる素晴らしい関係となっています。日本人学生は，3 年生のときから英会話を訓練し，夏には海外の農業や農村に研修にも行き，国際的な視野を養っています。

私は農村社会学，環境社会学を学問的な基盤とする地域社会開発学分野を担当しています。社会学といえば，人間と人間の関係や組織や社会制度などを研究対象とする分野ですが，そのなかでも農村社会学は農山漁村の社会・経済構造，歴史，文化を研究対象としています。

これまでの研究は，森林や水路など共有資源の管理，獣害問題，山村の土地利用と林業問題，地域活性化と社会組織，高齢化社会と農村の資源管理の問題，廃棄物の問題，女性農業者，芸術活動と環境など，その時期に社会問題となったテーマに取り組んできました。

統計資料や歴史資料などの二次的な資料を集めるだけではなく，フィールドワークが中心です。例えば，獣害問題を研究する際は，実際の狩猟に同行させていただき，猟犬のトレーニングや獣害の被害の現場を見たりします。このような活動の中から，学生たちは自分の研究テーマ以外の農業や農村の実態を感じ取ったり，そこでの生活の魅力や困難などについて感じ取ったりするだけではなく，さまざまな年代の人たちと多く触れ合うなかで，話したり聞いた入りする技術，礼儀作法などについても身に着けているように思います。

最近は，水産生物学の藤井直紀先生が 3 年間，助教としてこの分野に加わっていただいていたこともあり，学生たちとともに有明海の海苔漁師の生業の歴史に関する研究もはじめています。さらに，コースの教員たちと県のプロジェクトに参加し，中山間地の活性化方法に関する調査事業にも携わっています。

学生の進路先は，大学院進学のほかに，国家公務員（農水省）や地方公務員，JA，食品系の企業，農業法人，金融機関などがあり，数年に一度は中学校や農業高校の教員などへの採用など，多岐にわたっています。

農学部同窓会の皆様にはこれからも母校の出身学部への温かいご支援をよろしくお願いいたします。今後ともご指導ご鞭撻のほど，よろしくお願いいたします。

研究室の様子

フィールドワークの一コマ

インターンシップ体験記

農学部では毎年，多くの学生さんがインターンシップを体験されています。今回，参加された学生さんたちの感想と決意を掲載しました。同窓会ではインターンシップが円滑に実施されるような取り組みも行っています。インターンシップは会社説明会などよりもさらに現場の空気を肌で感じることができる場です。学生の皆さんの積極的な参加を期待しています。

生物科学コース　植物保護学グループ　線虫学分野　3 年生

岩根ミッシェル

私は 2023 年 9 月 4 日から 8 日までの 5 日間と 9 月 25 日から 29 日までの 5 日間のあわせて 10 日間にわたって，熊本県合志市にある農研機構九州・沖縄農業研究センターでのインターンシップに参加しました。私は大学で線虫学研究室に所属しているため，研究センターでは基盤防除技術研究領域 海外飛来性害虫・先端防除技術グループ（線虫）で活動しました。研究センター内の圃場の土を採取し，土の中から線虫を分離するベールマン法で線虫を集め，実体顕微鏡で線虫を観察したり，圃場作業をしました。この研究センターでは個人の研究ではなく，大学や企業と連携して研究を行ったり，研究資材を提供したりしていて，大学とは違った取り組みを行っていることが分かりました。また室内での作業だけではなく，ハウスや圃場での仕事もあり，体力が必要な仕事だと実感しました。このインターンシップで農研機構での具体的な仕事の内容を知ることができ，研究員という職業にもっと興味を持つことができました。研究センターの職員の皆さんはお忙しい中にもかかわらず，学生の私を温かく迎えてくださり，丁寧に指導してくださいました。心から感謝しております。10 日間と短い期間でしたが，たくさん学ぶことができ，インターンシップに参加してとても良かったと思いました。

職員さんからの指導の様子

実体顕微鏡での線虫観察

食資源環境科学コース　環境科学グループ　浅海干潟環境学分野　3 年生

杉原立樹

私は東洋環境分析センターという会社の福岡支部に 5 日間インターンシップに行きました。この会社は主に土木，旅館，食品製造関連の会社から依頼を受けて，飲料水やプール水，温泉などの水質の分析や，土壌，廃棄物，排水などの検査を行っている会社です。なんとなく自分が専攻している分野に関係しているなと思い，行くことにしました。一番良かったと思うことは，仕事内容がフィールドワーク職と分析職に分かれていて，その両方を体験できたことです。フィールドワーク職の体験として，海の水質を分析するために車で往復 3 時間ほどかかる海に行ったり，水質調査を依頼された取引先の方に出向いたりと，丸一日お仕事に同行させていただき貴重な体験をさせていただきました。分析職の体験としては水質微生物検査や食品微生物検査，水質の安定度指数の測定などを数日掛けてやらせていただきました。一日ではとても体験できない作業やお話を聞かせていただき，5 日間参加した甲斐があったと思います。ラボ内全体を案内していただき，会社全体の雰囲気を知れたことも良い経験になりました。

東洋環境分析センター外観

分析中の様子

食資源環境科学コース　環境科学グループ　浅海干潟環境学分野 3 年生

石井南帆

専攻している分野に通じた就職先を知るために，農業土木の建設コンサルタント会社でインターンシップを行った。インターンでは，会社説明を聞いた後，野外調査や図面作成，数値計算などの業務を行った。最も印象に残った業務は，CAD を用いて簡単なカレンダーの図面を作成したことである。CAD の操作は初めてだったが，社員の方が丁寧に教えてくれたので，楽しさに気付くことができた。デスクワークでは知識やスキルだけでなく，書類作成の正確さと効率的に進める計画性が求められることを感じた。知識不足で不安なままインターンに参加したが，社員の方々の生の声を聞き，たくさんの有益な情報を得ることができてとても良かった。業界や職種に関わらず，実際に働く社会人と近い距離で接する機会は非常に貴重である。不確実な将来に対する不安は誰しも抱えているが，インターンに参加するほど将来像を想像できるようになり，だんだんと不安の靄が晴れていくと思う。

食資源環境科学コース　環境科学グループ　浅海干潟環境学分野　3 年生

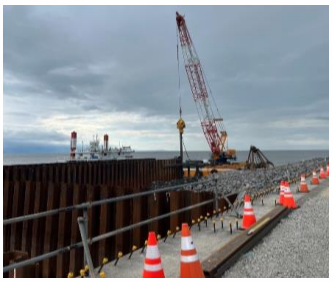
内藤　大翔

私は佐賀県庁の農業土木職のインターンシップに 5 日間参加した。1 日目は県庁職員に佐賀県の取り組んでいることについて教えていただいた。佐賀県庁では，さが園芸 888 運動やプロジェクト IF など様々な取り組みを行っており，佐賀県を盛り上げたり，災害から守ったりしてとても地域に貢献できそうな仕事だなと思った。また，働き方や試験のことについても聞くことができ，理解が深まった。2 日目から 5 日目は佐賀中部農林事務所に行き，多くの現場を見させていただいた。2 日目は転作した畑や有明海の海岸のひ門を移設する工事を見た。とても巨大な矢板を船からつるして，設置するところがとても迫力があった。3 日目は水資源機構に行き，巨大な吐水槽やポンプを見たり，川上頭首工を見たりした。4 日目と 5 日目は，クリーク防災事業を見るなどした。ナガエノツルノゲイトウがクリークを覆っており，対策が必要だと思った。

5 日間を通して，県職員として働くことの大変さや楽しさが少しは理解できたと思う。これからさらに知識を深め，社会でおおいに活躍できる人になりたいと思う。

クリーク防災事業

排水機場



有明海護岸工事

若手OB・OGからのメッセージ

学生時代を振り返って思うこと

福岡県農業総合試験場
資源活用研究センター　バイオマス部
神田　倫
（R5卒　生物資源科学）

私は 2023（令和 5）年 3 月に佐賀大学農学部生物資源科学科食資源環境科学コースを卒業し，同年 4 月から「農業職」で福岡県庁に入庁しました。現在は福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター　バイオマス部に所属しており日々試験研究業務を行なっています。バイオマス部の研究では，未利用バイオマス資源を活用した堆肥（土壌改良材）や肥料の施用試験に取り組んでいます。未利用バイオマス資源の堆肥を施用した土壌に

未利用バイオマス資源施用試験圃場（ブロッコリー）

おいて野菜を栽培することによって，収量と収穫後の土壌にどのような効果があるかを試験しています。早く知識を身につけ福岡県の農業をより良くする成果を出せるように日々精進していこうと思います。

私は学生時代，環境土壌科学分野（研究室）に所属し，土壌中の水分・溶質移動について研究をしていました。この分野は農学の中では「農業土木職」に分類される学問です。「農業職」とは異なります。そのため大学時代に学んだ専門的な知識を今の仕事ですべて活かすことができているわけではありません。しかし，研究室での経験は日々の試験研究業務で十二分に活きていると強く感じます。他の研究室のことはわかりませんが，私の研究室では特に卒業研究に力を入れられていました。

徳本先生の熱いご指導のもと，3 年時から専門知識を積み上げ，4 年時には自分で試験を計画・遂行し，国内外の学会において研究成果を発表する機会もいただきました。

ここで培った研究に取り組む姿勢や考え方，学外において研究発表を行なった経験は，これからの試験研究業務で間違いなく役に立つと信じています。このような経験を積ませてくださった先生には本当に感謝しています。

最後に在学生の皆さんには，どんなことにも一生懸命に取り組み，充実した大学生活を送っていただきたいです。勉強，サークル，バイト，遊びなんでもいいです。大学時代に真剣に取り組み経験したことは将来の自分の糧になります。ぜひ様々なことに取り組んで充実した楽しい大学生活を送ってください！！

国際水田水環境工学会への参加

卒業式後の集合写真

会員の広場

農学部教員 OB 会

編集担当　田代暢哉（S54 卒　農学・病理）

賛助会員である小島孝之先生（元副学長，学部長）から農学部教員 OB 会の様子が届きました。この会は野中福次先生（元学部長）が発起され，その後，佐古宣道先生（元学長，学部長），そして小島先生が引き継いでこられたもので，30 数年も続いているそうです。今回は 2023（令和 5）年 11 月 22 日に行われた農場の収穫祭後に佐賀市のあけぼの旅館で催されました。大島学部長による農学部の情勢報告の後，近況報告などでたいへん盛り上がったとのことです。恩師の先生方の笑顔が素敵ですね。お元気で充実した毎日を過ごされているようで何よりです。在学中はもちろんのこと，現在も何かとお世話になっております先生方のますますのご健康とご活躍を祈念するものです。

農学部教員 OB 会（2023 年 11 月 24 日，佐賀市あけぼの旅館）

佐賀大学卒業生と佐賀大学学生による新しいスタイルの同窓会

編集担当 田代暢哉（S54 卒 農学・病理）

「同窓会フェス」に参加しました

佐賀大学同窓会ではこれまで会員相互の親睦，同窓会活動や学生の取組などの情報発信などが行われてきました。同窓会の趣旨は会員相互の交流・親睦です。しかし，ライフスタイルが変容している現代では，これまで同様のやり方では人が集まらない現状にあります。そこで，幅広い世代が参加しやすいような企画を取り入れた新しいスタイルの「同窓会・交流会」である「同窓会フェス」が楠葉同窓会を中心に企画され（主催：佐賀大学楠葉同窓会，佐賀大学農学部同窓会，佐賀大学芸術地域デザイン学部同窓会），2023 年 10 月 8 日に JR 佐賀駅前交流広場で開催されました。「同窓会フェス」の目的は多くの幅広い世代に参加してもらい，また学生や保護者

の方々への広報を図る意味合いもあります。

当日はあいにくの雨模様でしたが，佐賀大生による音楽ステージや体験コーナー，物販，キッチンカーによる飲食提供など，たいへん盛り上がりました。同窓生や在学生には食事や物販の引換券が配布され，とても喜ばれていました。農学部のアグリ創生教育研究センター久保泉キャンパス（農場）からは大量の野菜や果物が出品されていて大盛況でした。

農学部同窓会でもこの機会を利用してバラとアスパラガスの販売を行いました。ともに午前中には売り切れてしまいました。

また，物販スペースには多くの同窓生が立ち寄って，昔話などで盛り上がっていました。今回のような形での同窓生の再会，交流の場があることはたいへんありがたいことです。今後の開催の継続が期待されます。

同窓会フェスチラシ

農学部同窓会物販スペースでの卒業生，在学生

山菜の栽培法と食べ方講座　②コゴミ（クサソテツ）

田中欽二（S39 卒　農学・保護）

コゴミはクサソテツの春の若芽を利用する山菜名のことです。クサソテツは落葉性の多年生シダ植物で，春になると地上部に葉が渦を巻いた新芽をだし，これがコゴミと呼ばれるものです。東北地方では小さくかがんでいる姿を「こごむ」と言い，シダ類の若芽の先端が巻き込んだ姿が，かがんでいるように見えることに由来しています。ワラビやタラノメなどとともに日本人には古くから馴染みがあるのですが，佐賀県ではあまり知られた存在ではありません。東北地方や中部地方では手軽に食用にされている人気の山菜です。

食用になるのは春に出る若芽の栄養葉（コゴミ）で，葉柄の先が渦巻状に丸まった状態が食べごろです。20cm 位までが収穫適期です。これを過ぎてしまうと硬くなって食べることができません。サクサクした食感と，かすかなぬめりが，多くの人に好まれています。アクが少なく，上品な味と食感で，そのまま茹でて食べていいですし，おひたし，ごま和え，白和え，てんぷらなどでも，おいしくいただけます。

クサソテツは低山から深山の雑木林の中の木漏れ日が当たるような湿った場所や渓流沿いなどに群

生しています。佐賀県では 2001（平成 13）年に大分県竹田市で採取されたものが導入され，佐賀県農業試験場三瀬分場で栽培試験が始まりました。研究担当は同窓生の江頭淳二氏（H4 卒　農学・育種）でした。その結果，一日中日光が当たるところではなくて，木漏れ日のさす，あるいは朝日が当り夕日は当たらないような林の中での栽培が最適であることが明らかになりました。今後，佐賀県内での産地化が期待されている品目の一つです。

古い葉（株）の中心から出芽したコゴミ（４月上旬）

渡邉　潔先生が県美術博覧会で最高齢入選

編集担当 田代暢哉（S54 卒 農学・病理）

恩師の渡邉先生が第 73 回県美術博覧会の洋画部門で最高齢（96 歳）での入選を果たされました。ほんとうにおめでとうございます。退官後に絵画を始められた先生のご活躍は目覚ましく，各種展覧会で多数の受賞があります。

先生は佐賀大学農学部の生き字引的存在です。農学部同窓会報ありあけの 27 号には「農学部赤松校舎時代の思い出」，そして 29 号には「佐賀大学農学部の創始期」をご寄稿いただいております。拝読しますと，今とは隔世の感があり，驚きの連続です。当時の様子がしのばれる貴重な内容の記事，写真，資料です。在学生の皆さんにはぜひ読んでいただき，農学部の創始期をたどっていただけたらと思います（ありあけは農学部同窓会ホームページに掲載されています）。 先生のますますのご健康とご活躍を同窓生一同心から祈念する次第です。

近ごろ通信

県展で最高齢入選を果たした渡邉潔さん（96）

佐賀市の県立博物館・美術館で26日まで開催されている第73回県美術展覧会の洋画部門で、最高齢での入選を果たした。80歳から始めた絵画に「生きてる間は描くよ」と意欲を示す。

農業土木が専門の佐賀大名誉教授で、大学設立当初から教べんをとった。「何にでも興味がある男」と自称し、コーラスや写経、ダンベル教室と日々忙しく活動する。

絵は「時間を忘れ、頭を使う。ぼけ防止に最適」と笑顔を見せる。県展のほか県シニアアートフェスタにも出展していて、「挑戦できる公募展があるのは楽しい」と話す。

50号のアクリル画「命」で5年ぶり2度目の入選した。自宅の庭で、キンモクセイの根が地面を突き抜けて力強く息づく様子に生命力を感じ、筆を握った。

展覧会では高校生のレベルの高さにも驚かされる。「負けていられない。100号サイズの絵に挑戦するのが夢」と意気込んでいる。

佐賀市。（花木芙美）

佐賀新聞 2023 年 11 月 24 日記事
（転載許可済み）

支部だより

農業自営者の会

令和 5 年度の農業自営者の会の総会と懇親会を，2024（令和 6）年 1 月 27 日土曜日に佐賀市神野の御食事処久坊で開催しました。これまでコロナ禍のため会の実施が見送られてきており，久しぶりの開催となりました。会には歴代会長をはじめとして 16 名の参加がありました。田中欽二先生（S39 卒　農学・保護）と内海修一先生（S47 卒　農学・農経），白武義治先生（S51 卒　農学・農経）にもご参加いただきました。また，同窓会からは松尾信寿副会長（S63 卒　園芸・果樹）に来賓としてお越しいただきました。総会は滞りなく終了し，皆さんお待ちかねの懇親会に移りました。

各自の自己紹介では，皆さんがそれぞれの立場で充実した毎日を送られていることを強く感じることができました。大先輩や先生方との話が大いに弾み，話題が尽きず，時間が足りませんでした。とても盛り上がったので，さっそく次回の開催が話題になり，今年の 8 月に行うことになりました。農業自営者の会の皆様のふるっての参加をお待ちしています。問い合わせは農学部同窓会事務局（TEL 0952-23-1253）までお願いします。

会長　末次　博幸　（S54 卒　農学・作物）

農業自営者の会（於　佐賀市御食事処久坊，2024 年 1 月 27 日）

ー 同窓会からのお知らせ ー

会費対策担当からのお願いです

佐賀大学農学部の同窓会は「会員相互の親睦を深めるとともに，母校の発展に寄与する」ことを目的に 1973（昭和 48）年 4 月に設立されました。その根幹は卒業生・在学生の皆様に同窓会活動をご理解していただくことにあります。

このため，役員会では，まずは皆様に同窓会の活動内容を知っていただくため，1993（平成 5）年度から以下の三つの活動に取り組んでいます

① 会報やホームページ等を活用した同窓会活動の PR 強化

② 卒業生のネットワーク強化（住所確認，情報提供の充実）

③ 在学生への支援策の拡充

また，現在，県外にお住いの方にも本会の活動に参加していただけるようホームページや Facebook，場合によってはインターネットでの web 参加等も可能な環境を作っています。ぜひご活用ください。

ホームページアドレス：http://sadai.jp/alumn/nougakudousoukai/
Facebook アドレス　　：佐賀大学同窓会@saganougakudousoukai

さらに，在学生の皆様には同窓会に加入していただくことで，以下（農学部同窓会の活動 3）の支援制度も利用していただけます。

今後，同窓会としても，より魅力ある活動を展開していきたいと考えています。このような活動を支えるために同窓会への加入，そして会費の納入をぜひともお願い申し上げます次第です。また，すでに加入されている方は周囲の未加入者に加入をぜひ勧めていただきますよう，改めてお願いします。

以下に同窓会の活動概要を紹介します。

〇農学部同窓会の組織

１）役員

・会長 1 名，副会長 3 名，理事 16 名，監事 2 名，役員（各支部長）7 名

２）同窓会の支部構成（7 支部）

・佐賀県庁支部，佐賀県教職員支部，佐賀県農協連支部，農業自営者の会，佐賀県支部，神埼支部，熊本県庁支部

〇農学部同窓会の主な活動内容

１）会員の親睦，組織活動の活性化

①総会，理事・役員会，専門担当部門の運営

②会員相互，農学部，在学生との情報交流

・会報「ありあけ」の発行（7 月，1 月）による会員相互の情報交流

・ホームページ，Facebook による情報発信

③農学部との意見交換会の開催等による連携強化

④ その他，同窓会活動への功労者表彰や各支部活動への支援など

２）在学生への支援

①交流会等での就職ガイダンス講師の派遣

②交流会と合わせた懇親会の開催

③学生によるインターンシップ実施やマルシェ活動への支援

④その他（学生の海外研修に伴う経費の助成など）

○農学部同窓会の会費等の概要

１）在学生は「準会員」。入学時に 25,000 円を一括納入

※入会後 10 年間の会費となっており，入会金等も含まれます

２）卒業生は「正会員」。年会費 2,000 円。

※「終身会費」30,000 円（70 歳以上の方は 15,000 円）」の納入をお勧めします

会費は納入いただいた時点以降の取り扱いになります。それまでの納入以前の未納については問いません。会費の納入は，ゆうちょ銀行への振り込みとなっています。同窓会事務局（Tel 0952-23-1253）まで連絡をいただければ，払込取扱票をお送りします。

同窓会の活動内容，加入や会費納入に関する質問など，
お気軽に同窓会事務局までお問合せください。

（同窓会副会長・会費対策担当　鐘ヶ江 直雅　S56 卒　農化・生化）

編集後記

○佐賀大学農学部同窓会誌「ありあけ」は会員同士，会員と大学，そして会員と在学生とを繋ぐ重要な役割を果たしています。2007（平成 19）年の創刊以来，多くの皆様に支えられて今号で 33 回目の発行になりました。

○これからもその使命を果たすべく，多くの会員の皆様に投稿していただきたい，そして，同窓生の活躍の様子を紹介するとともに，在学生へのメッセージや後輩へのアドバイスになるものがあり，同窓会への関心を高め，同窓会活動の活性化を図るものにしたい，そのような思いで編集にあたっています。

○巻頭言では東京農工大学名誉教授の野見山敏雄氏（S54 卒　農学・育種）に食料安全保障と地産地消の再定義について寄稿いただきました。同氏は地産地消研究における我が国の第一人者であり，時宜を得た多くの示唆に富む内容になっています。

○農学部情報では就職関係情報，研究室紹介に加えて，インターンシップについて取り上げています。インターンシップは在学生と卒業生とを繋ぐ機会でもあります。今後とも学生の皆さんの積極的な取り組みが期待されます。

○若手 OB・OG からのメッセージでは神田さん（R5 卒　生物資源科学）に寄稿していただきました。会員の広場では 4 つの記事を掲載しています。それぞれの立場で，公私ともに充実した日々を送られていることが伝わってきます。

○支部だよりでは自営者の会からの情報を掲載しています。今後とも多くの支部からの活動報告を期待しています。

○同窓会活動の一端について紹介するとともに，同窓会活動への理解と会費納入についてのお願いをさせていただいております。どうかよろしくお願い申し上げます。

（編集担当代表　田代暢哉　S54 卒　農学・病理）

協賛広告

MORIMITSU

Grain & Pet Care Communication

株式会社 森光商店

ホームページ http://www.morimitsu co.jp

Aiming for evidence-making that is appreciated by Japanese farmers and trusted by researchers around the world

一般社団法人
プラントヘルスケア研究所

Think globally, start immediately, and act locally for plant healthcare

代表理事　田代暢哉（S54 卒　農学・病理）
840-0051　佐賀市田代 1-2-12
Mail tashirongreen12@gmail.com

Vegefru stadium

青果をとおして
健やかな暮らしを支えていく

福岡市中央卸売市場
福岡大同青果株式会社
代表取締役社長　丸小野　光　正（S 52卒）
常勤監査役　草　場　昭　夫（S 57卒）
〒813-0019　福岡市東区みなと香椎3丁目1番1-204号　TEL(092)235-8950(代表)　https://fdydo.co.jp

藤井重隆(課長)（H 8卒）　村井裕樹(係長)（H 8卒）　中村春華(係長)（H 28卒）（旧性 石志）
上野純弥(係長)（H 28卒）(院 H 30卒)　西田雄輝(係長)（R 2卒）（院 R 4卒）　樽水雄揮(R5卒)
伊藤千夏（R6卒）　髙橋宜李(R6卒)